

全画面表示を終了するには **esc** を押します

インクルーシブデザイン アイデアソン

Aチーム

ユーザー：芹澤さん, 小林さん

メンバー：渥美 航（コクヨ）, 岩井 宗一郎（富士通）, Park Kyoohyun（トヨタ紡織）, 成瀬 有莉（コンセント）

アドバイザー：稲垣さん



スライド 1



Q&A



ノート



ポインター



字幕



ヒント



終了

芹澤さん・小林さんのご紹介



- 四肢麻痺
- 車椅子ユーザー（電動）
 - 操作は自ら行い、必要な場面のみヘルパーさんに手伝ってもらう
- ホームヘルパー事業所の管理者
- 旅行が趣味
- 小林さんは芹澤さんのヘルパー（5年目）

ショッピングフィールドワーク動画を見て...



パン屋にて、入り口の段差とピンク色の台が幅をとっており中に入れず、ヘルパーの小林さんのみ中に入り、スマホで写真を撮ってパンを選んでもらっていた。



芹澤さん・小林さんにヒヤリングを進めていくと...



確かにお店には入れなかったが、様々な方が気にかけて行動してくれた。



台をそっと
退けてくれるお客さん



「スロープ作ろうか？」
と言ってくれたお客さん

(1週間後には設置されており、車椅子ユーザーだけでなく、ベビーカーや足の悪い方にも好評)



外で待っている間、
パン教室で作った
パンの試食をもらった



こんなコミュニケーションが
より多く、自然に生まれるような
体験を作る

ターゲットと課題

車いすユーザー

一般の方

少しのサポートがあるだけで
出来ることが広がる.....



物理的に行けない.....

助けを求めるほどでも
ないかな.....

サポートしてくれたら
嬉しいけど.....

話しかけづらいな.....



何をどうサポートすれば
いいんだろう

そもそも
そういった
ユーザーがいると
気付かない

わざわざ話しかける
ハードルが高いな.....

PAL ~パル~

会話のキッカケになる
パートナードローン

『パル』は、サポートを必要としている人と、人の助けになりたい人の間に立ち「コミュニケーションのきっかけ」を生み出すパートナードローンです。他者の助けが必要になることの多い車椅子ユーザーにとっては、支援が必要な場面において、素早く、的確にサポートを受けられることはとても重要です。

他方、普段困っている人を見かけた時に助けてあげたいけど、何をすべきなのかが分からず、勇気を出して「何かお困りですか？」のコミュニケーションを取ることを諦めてしまう人も少なくはないでしょう。そんな時『パル』がいることで、「助けてあげたい、けど話しかけるのはちょっと勇気がいる」という人が、まるでペットを連れてくる人に話しかけるような気軽さで、会話を始められます。

『パル』は、頼もしくて愛らしい、心温まる体験を作ってくれる、車椅子ユーザーのパートナーです。

”助け合いのはじまるしるし”と、あなたも一緒にお出かけしてみませんか。

助けが
必要な時でも

入れない時でも

夜道でも

PALの提供価値

パルは、車いすユーザーのサポート必要度合いを分かりやすくし、
一般の方と車いすユーザーが自然にコミュニケーションを始められる
キッカケを作ります。

自分の状況を
分かってもらえた

人の優しさに
触れられたなあ

サポートしてくれた
お陰で段差を超えられた



車いすユーザー



PAL ~パル~



一般の方

何をすればいいか
分かった！

サポートが必要な方の
役に立てた……！

次もそんな人がいたら
積極的に話に行こう！

PALの具体的な機能

【ニーズ】

人の助けが必要なときに、すぐに誰かに気付いて支援してほしい

【解決方法としての機能】

PALの愛らしいフォルムに興味向き、ユーザーに話しかけやすくなる

PALのディスプレイ上にサポートの必要度合いを表情を再現することで、助けてもらえる状況を作りやすくなる



【ニーズ】

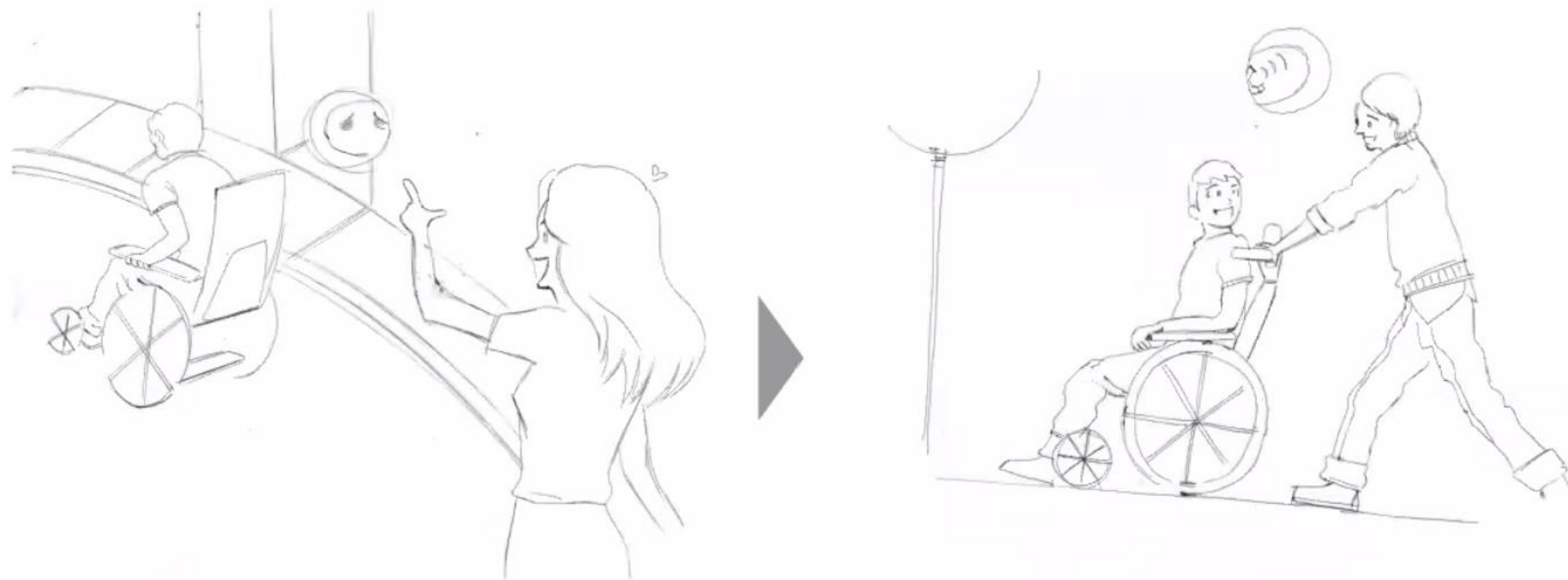
自らがいけない環境において、コミュニケーションを代替して欲しい

【解決方法としての機能】

PAL単独でコミュニケーションをとりたい先に飛んでいき、通話機能でユーザーとのコミュニケーションのハブになる



シーン1：会話しやすい雰囲気作り

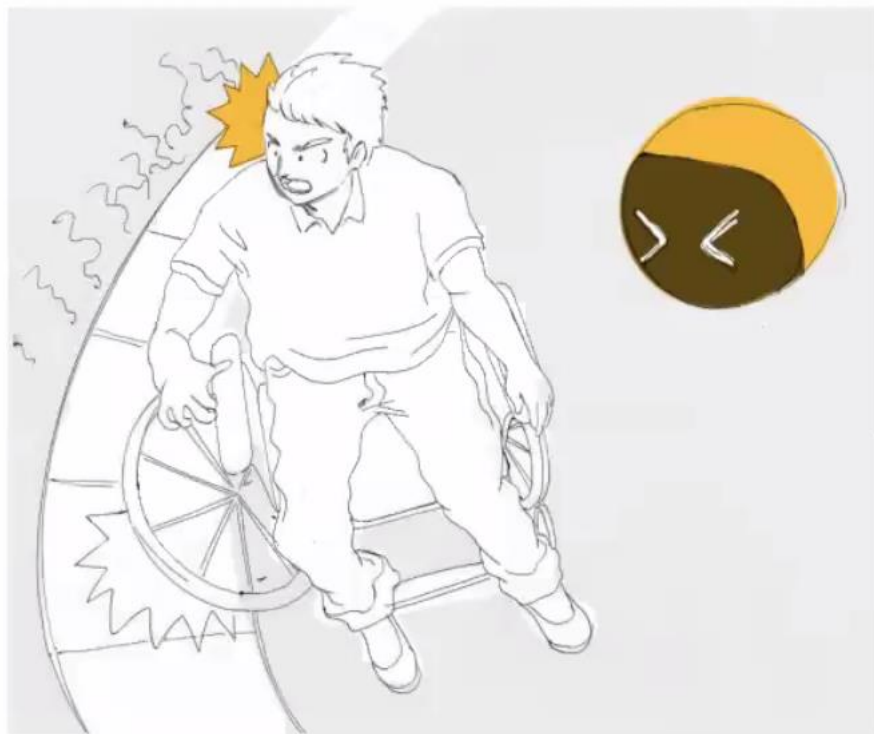


風船のように浮かび可愛らしい見た目。他の人が話しかけやすい雰囲気を作る

そのことによって自然と車いすユーザーに話かけることが出来る

車いすユーザーはサポートを求めるほどでもない微弱な問題が解決して、嬉しい

シーン2：必要時に周りにサポートを求める



サポートが必要になった時は、色が変わって近くに
いる人に代わりにサポートを求めに行ってくれる

自分の代わりに行ってくれるので、素早く解決する

シーン3：自分で行けない所に代わりに行く



自分で行けない場所にコンタクトを求める必要がある場合には、操縦モードに切り替えられる

通話モードでドローンがいる場所の人と会話ができ、直接サポートを求められる

それ以外での活躍の場所



夜道を照らして
安全確認



周囲に来た
通行人や車、自転車の
アラート

考えられる他のシーン



子どもの行き帰り



ちゃんと帰ってる
ね、安心!



危険な場所が
あったら教えて
ね

ベビーカー



コーヒーつ
ください

接触を避けたい人

今後の検討事項

- ビジネスモデル, 価格
- 愛らしさ・コミュニケーションが生まれることへの検討
- 自身でドローンを操作するインターフェース